（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	ともだちひろば　にんな（放課後等デイサービス）	公表日	２０２６年　3月　9日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4		個別活動は1対1対応で個の課題に配慮した対応ができている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		別室で学習できる環境は整っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		個々の実績を踏まえ、指導計画に沿って（課題を踏まえた上で）療育がされていると思う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		児童の気になる点や保護者からの意見を出し合いやすい職場の雰囲気がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		色々な研修をしていると思う。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	4		日々の記録が個別に管理され、実態把握に繋がっていると思う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	1		放課後デイだけの職員とコミュニケーションをとる時間が少ない現状。時間の捻出を考える。

な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	1		職員間で柔軟な協議・検討が行えるような体制をとっていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			時間があれば、気になったことを伝えている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1		運営基準を満たしながら、小学生の受け入れ時間を確保するためや、常勤職員の勤務時間を８時間におさめるために児童発達との隙間時間を作ることができない現状。その他の時間を活用して、連携強化を図る。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	3			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		集団活動では活動内容や方法等、子どもが中心になって話し合いを進めたり、子どもの言葉を引き出すような問いかけをしていると思う。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		児発管、担当指導員、または管理者が会議に参加している。児発管は必ず担当者と事前に状況の確認を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		連携の必要がある時は、こちらから連絡をとる時もあるし、連携依頼があったら必ず誰かが参加することを常としている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		学校での連携会議に参加し、情報・支援方法の共有をしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		連携がとれそうな園とは、相談員さんとも協力して会議を行ったり、依頼があれば園の訪問・助言も行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1		小学校6年生で修了とさせてもらっているため、福祉サービスと連携することがない。	依頼があれば、いつでも情報提供できる。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	1		連携を図る機会がない。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2		基本、児童会を利用しながらの療育スタイルをとっている。療育時間を取り過ぎずに、地域で過ごす時間を大切にしてほしい。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		管理者・児発管が定例会やこども部会へ参加し、職員へ報告を行っている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		来所時にご家族から様子を伺ったり、お迎えの時にその日の様子や気付きなどを必ず伝えることにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		・日頃のコミュニケーションによる部分が大きいが、会報等でも発信。 ・会報にて色々な方面からの情報提供をしている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			子どもの意向を聞き取る時間をもうける。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	4			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		来所時にお話を伺ったり、ご希望があれば別に時間をとって電話や面談で相談をお受けしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2		フリースペースにんなとして、第1土曜日に事業所を開放し活動に使ってもらったり、利用の有無に関わらず相談に来てもらったりできる取り組みを始めた。	フリースペースにんなの広報に努める。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		苦情があった場合は、速やかに第三者委員への報告を行い、指導・助言を受けるルールをもうけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1			時間的な余裕がない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		利用開始時に把握することとしている。その記録は利用児の指導記録内１ページ目にコピーを綴ってあり、いつでも誰でも確認できるようにしてある。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	―	―		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	4			家族への周知に至らず。お便り等で周知を図る。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		身体拘束は行わない。利用児や他の利用児に危険が及ぶと判断した場合は、家族に説明し同意書に署名いただく決まりになっている。	職員に繰り返し周知する。